

事務局：(財) 奈良県緑化推進協会内

〒630-8301 奈良市高畑町 1116-6

TEL 0742-24-0200 FAX 0742-24-2110

メールアドレス：gvnc@nifty.com

ホームページ：<http://homepage2.nifty.com/gvnc>

● 主な活動の記録 (1月～3月)

平成 23 年 1 月 8 日 (土) 山の新年会 矢田山遊びの森

新年最初の定例活動に 20 数名が参加。上田理事長より地道に安全を第一に活動の継続をとの年頭の挨拶の後、「天平の森」地拵え、炭窯周辺の整理、薪づくり、子ども交流館ロッカーの整理、甘酒づくりに分れての作業。昼には暖かい甘酒と渡邊さん手作りのアン入り草餅が振舞われた。午後も地拵えを除き午前からの作業を引続き行った。おやつに焼きいもを食した。

1月9日(日) 林研一吸収源対策助成事業 日笠町

昨9月以来4回に亘って実施のヒノキ林で間伐した材の造材・集材・搬出の技術研修。林道には雪が残り、一部凍結しており、融雪剤をまきながら車を進めた。搬出には作業地から林道までは尾根越え、かつ百数十メートルと距離があるため林家の協力で林内作業車を出してもらいそのウインチを多用しての作業。

1月10日(月) 県立盲学校 クラフト指導

中高生の寄宿生と先生方合わせ十数人を対象に当クラブ員4名が木工クラフトを指導。ベースとなる輪切りを体験し、モクマルくん・モックンを手始めに、後は次ぎから次ぎへとどんどん発想が広がりかなりバラエティーの富んだ作品が多数出来上がっていった。最後まで根をつめて作っていたのは先生方であった。

輪切り作業

コミックのキャラも

何か出来るかな？



1月12日(水) 特定事業 雑木林間伐 ホダ木・炭材搬出 大保町

民有の雑木林でクヌギ・コナラを中心に間伐したものを、ホダギ用は1メートル、炭材用に90センチに切り揃え、借りてきた2トントラックで運び出した。林道には前夜に降った雪がかなり残っておりトラックは作業地まで入れず、県道近くで待機し、軽トラックのピストン運転で積替えての搬出を余儀なくされた。

2月12日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

前日の雪が10cmばかり残る寒い日、参加者も少なく、予定していた「天平の森」と「ふるさとの森」の地拵えは中止し、植林祭の準備として、間伐材を利用したの樹名板づくりや竹ぐしづくりをし、早めに終えた。

2月19日(土) 「森林ボランティア一日体験」

——緑の募金・特定公募事業——

「国民参加による間伐及び間伐材の利用促進事業」として取組み、すでに第3年度目に入っている。一般市民・林業家と共に進め、森林への理解を深めると共に、地域への協力を進めるもの。阪原町の民有ヒノキ林（30～35年生）で間伐と搬出研修を行った。宇陀市森林組合榎氏、県北部農林振興事務所村上氏を講師として迎え、林家である榎氏には林内作業車のオペレーターとして参加して頂いて実施。まず、間伐の意義、安全な作業等についての説明を受け、造材、林内作業車で引出し、土場まで運んだ。最後に伐倒を滑車を使つてのロープワークにより行った。

午後は、場所を変えて、榎氏宅の庭先をかりて、ナメタケの種菌を、サクラ並びにコナラの原木に打ち込んだ。サクラは来年、コナラは再来年に収穫が可能とのこと。今からみそ汁に入れて味わう独特の食感が楽しみ。

林内作業車

搬出

土場での材降ろし

ナメタケ植菌



2月26日（土） 定例活動 矢田山遊びの森

新入会の若手一名を含む30数名が参加。「ふるさと森」と「天平の森」二手に分かれて、植林祭の準備として、「天平」では植栽予定木10種、110本の植栽位置を決め、印として樹名を書き込んだ竹ぐしをたて、階段等アクセスの整備を行った。「ふるさと」では、地拵えの最終段階である二度刈りしながらの整備を行った。

午後は、シイタケの植菌をコナラの原木30本に1000基の種を埋め込んだ。女性陣は料理体験館の倉庫の整理を行った。

3月6日（日） 「潤いの森」植樹

NPO法人 瀬戸内オリーブ基金からの助成を受け、日笠町の茶畑跡を里山に再生すべく一般参加者も含め20名が参加し植樹を実施。

日当たりのよい所で、向かいの山の斜面には映画「嬢の森」の代表的なシーンとなった茶畑が見渡せる見通しのよい中腹。ヒノキ200本、サクラ10本、栗4本と甘柿・西条柿各3本を3班に別れ、丁寧にかつ手際よく植栽し、足でしっかり踏み固めた。最後に記念の標柱を立てた。多少時間に余裕があったので、近くの荒れ放題となっている竹林の整備を行った。

昼食には、植栽地の提供を頂いた林家、城森氏の庭先を借り、焼きそば・お好み焼きを作り、更に同氏夫人よりのおにぎりの差入れもあり、満腹・満腹。

植栽作業風景

標柱立て



3月10日(木) 県立筒井寮 クラフト指導

今回は、寮生と自宅通学者との交流も兼ねて14名が集まり、当クラブから6名が指導にあたった。材料は松ぼっくりを主体に、種々の木の実や殻を組合せ、ホットボンドでくっつけて小動物や漫画のキャラに似せたものや、ケーキをかたどったもの等をどんどん作っていき、ほとんどが小一時間の間に3個づつぐらいを作り上げた。作品を前に一緒に記念写真を取り、最後に一年間の指導のお礼として、子供たちの手作りストラップをプレゼントがあり1個づつもらって分れた。

見本説明

ほとぼしるアイデアを形に

作品と共に

自慢の作品を手に



3月12日(土) 全国育樹祭記念「天平の森」植林祭

——「ローソン緑の募金」公募事業——

今秋、平城宮跡で開催される第35回全国育樹祭の記念行事の一環として、奈良県森林ボランティア連絡協議会主催、(財)奈良県緑化推進協会の後援で、矢田山遊びの森で実施。

放棄棚田跡地を整備し、天平時代に平城山や春日奥山などの奈良の森をかたちづくっていた樹種を選んで植栽。木々が元気に育ち、木々と会話しながら、遠く天平の昔に思いを馳せて楽しく散策の出来る森づくりを目指した。参加者は5名の来賓をはじめ、ローソン、リコージャパン、サタデースクール、NPO法人森づくり奈良クラブ合わせ約160名の多くとなった。毎年参加のサタデースクールからは、小学生幼児・保護者・スタッフに加え、あらたに助手として帝塚山大学生男女16名の参加もあり90名となった。

開会式、記念写真の後、3班に分かれそれぞれ道具類を手に植栽地へ。植栽手順の説明を兼ねて、ローソン代表者による記念植樹のあと、数名ずつのグループに分かれ、ヤマザクラ・ヤマモモ・エノキをはじめ10種110本を心を込めて次々と植込み、足でしっかり踏み固め、思い思いのメッセージを樹名板に名前と共に書き込み支柱にぶら下げた。班別に寄書きをした標柱を囲み記念撮影をし、料理体験館に戻り昼食。

午後には、もちつき・クラフト・パトロールを兼ねて自然観察・植樹点検とそれぞれ行った後、搦き立てのもちが入ったぜんざいを味わって解散。

この日の夕方、第一子が誕生予定の参加者があり、無事の出産と子供の健やかな成長を願いながら、一生懸命に植栽に励んでいる姿が印象的。

「ローソン緑の募金」は、全国47都道府県のローソンの各店舗に皆様から寄せられた寄付金から成り立っており、当矢田山での植林祭に対する助成は今回で7回目となります。なお全国で今までに寄せられた寄付金の累計は20数億円に上るとのこと。

記念植樹

植栽風景

記念写真

無事の出産を祈って



3月26日(土) 「ふるさとの森」づくり 「植林祭」

——「緑の募金」公募事業——

矢田山遊びの森の放棄棚田跡地を整備し、「ふるさとの森」として再生のための植林祭を、(財)奈良県緑化推進協会の後援を得て実施。地元万青会のメンバー初め一般公募を含め70名弱が参加。

開会に先立ち、東日本大震災で犠牲となられた方々に黙祷をささげ、また受付には間伐材を利用して作った募金箱を備え、被災者への義捐金を募った。

開会式で、植林祭の趣旨・行事内容・日程の説明の後、4班に分かれ道具を手に約600メートル先の植栽地へ移動。この日のために、矢田山遊びの森で拾ったコナラ・クヌギ等のドングリを苗畑で、5年前から育てた苗木や、林内で採取した実生のウラジロノキ・タカノツメ等の幼木合わせ9種、108本を植栽。所々の湿地では、根腐れ防止のため高植えを行った。樹名板をつけ、班別に標柱を立て記念写真。昨年植栽木を観察しながら料理体験館に戻り、昼食。女性を中心に朝から準備頂いた、具いっぱい豚汁と豆の入ったおにぎりを味わった。

午後は、「ミニ里山づくり」として、これも当地で採取したウラジロノキ・コシアブラ・タカノツメの幼樹や挿し木で育てたイロハモミジをプランターに植込み、カシワ・クヌギ・コナラ等のドングリを埋め込み、来年の植林祭用の苗木として育てるため各自、家に持帰った。更にヤマコウバシ・アマチャ・コリヤナギの小枝を予め発根促進剤(メネデール)溶液に浸しておいたのを鹿沼土を入れたポットに挿し込みこれも育てるため持帰った。この間、子供たちを中心に木の実・殻を使った小動物等のクラフトづくりをした。

来賓挨拶



植栽風景



標柱を立てる



ミニ里山づくり



クラフト



<<お知らせ>>

4月23日(土) 近鉄奈良駅前、並びに4月29日(金) 大和郡山 イオンモールで予定されていた「緑の募金」の街頭募金活動は、現下の状況に鑑み中止となりました。

(財)奈良県緑化推進協会で、推移を見てあらためて日程を検討されるとのこと。決まり次第、再度皆様のご協力をお願いします。